

業種	アパレル業
活用分野	店舗における単品販売管理
テクノロジー	バーコードリーダー付き携帯電話、アプリケーション開発キット

## 新型ケータイで店舗売上把握をスピード化

百貨店を彩る婦人服売場。東京・根岸にオフィスを置く東京白ゆり會は、1948年に創業し、現在は全国の百貨店などに105店舗（2010年3月現在）を出店している。創業60年のノウハウと職人の技に支えられた品質への徹底したこだわりが同社の身上であり、「何を買っても間違いがない」と全国のみセスから高い評価と信頼を獲得している。

しかし近年、低価格品の流入を筆頭に

国内アパレル業界の環境は激変した。さらに百貨店との取引ではシーズン後に売れ残った商品を引き取る独特の商慣行があるため、同社の経営には、商品の売れ筋をいち早くつかむことが不可欠だった。

そこで情報システム部課長の広瀬俊貞氏は、KDDIのバーコードリーダー搭載ケータイE06SHとBREWアプリ「ケータイカスタムキット」(KCK)を活用して新しい販売管理システムを構築した。

た場合はエラーが返るなどの工夫もした。

従来からの、販売した商品の半券を本部に送る方式と比べ、売上が把握されるまでの日数が最大約8分

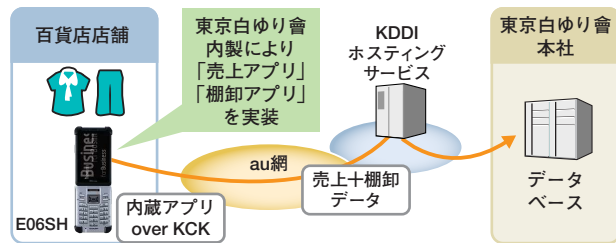
の1に短縮された。そして、蓄積されたデータを参考に毎週、追加発注会議を行い売れ筋商品を追加生産し、すばやく投入。売上増に大きく貢献しているという。

広瀬課長は、E06SHに組み込む売上データ送信アプリ・棚卸アプリを「ケータイカスタムキット」で構築。操作性がよくスキャナー性能の高い新システムは現場にも好評とのことだ。



情報システム部 課長  
広瀬俊貞氏

図 ケータイを活用した新販売管理システム



同システムでは、現場で売れた商品のバーコードを読み取りサーバへ送信。このデータを本社で活用するというものだ。百貨店の値札タグなどを誤って読み取っ